



# 新年のご挨拶

徳島県知事 飯泉 嘉門

明けましておめでとうございます。

社団法人徳島県宅地建物取引業協会の皆様におかれましては、輝かしい新年を健やかにご迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

出口会長をはじめ、貴協会の皆様におかれましては、日頃より、不動産業界の発展に多大なご尽力をいただくとともに、本県の住宅・建築行政はもとより、県政全般にわたり格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

また、貴協会は本年4月から公益社団法人として生まれ変わるとお伺いしており、創立から45年を経て、新たなスタートを切られることに心からお祝いを申し上げますとともに、これを機会にますます発展されますよう期待いたしております。

さて、昨年ロンドンオリンピックで史上最多となる計38個のメダルを獲得し、続くパラリンピックでも、徳島県の正木健人選手が日本人選手第一号となる金メダルを勝ち取るなど、我が国はスポーツを通じて大きな感動に包まれました。一方、『文化の力』でまちづくり！』をテーマに、「全国初」二度目の「第27回国民文化祭・とくしま2012」が開催され、徳島ならではの伝統文化の継承・発展はもとより、人材の育成、地域の活性化を通じて、文化の力を積極的に活用したまちづくりを展開しました。

また、「東日本大震災」以降、いまだ余震と思われる地震が時折発生する中、昨年は「南海トラフの巨大地震」への備えの重要性を再認識した年でもありました。そこで、県におきましては、「震災時の死者ゼロ」を目指し、「自助・共助・公助」の役割の明確化、土地利用の規制と緩和を盛り込んだ全国初となる「震災に強い社会づくり条例」と、その財源を目に見える形とする「震災対策基金条例」を制定いたしました。

さらに、災害医療をはじめ県民医療の最後の砦となる「新県立中央病院」を開院し、ドクターヘリの運航をスタートさせて救命率の飛躍の向上に取り組むなど「安全安心・実感とくしま」を推進するとともに、「全国屈指のLED性能評価体制」

の構築や「発達障害者総合支援ゾーン」のオープン、「サテライトオフィス」の展開など、次の時代への羅針盤となる徳島の挑戦を実践してまいりました。

年が改まり、今年の干支は「癸巳（みずのと・み）」。十干最後の「癸」は、過去9年の総仕上げと、次代の幕開けに向けて荒々しくも地ならしが行われることを意味し、「巳」は「胎」に通じ、従来の因習的生活の終了と、新たな生命の鼓動を表します。そこで、癸巳の年は、干支60年サイクルの前半最後の年として「前世代を総括して、社会が全く新しい仕組みへと大転換する土壌を創るとともに、新時代の目標を定めるべき年」とされております。

本年は、県政運営の指針「いけるよ！徳島・行動計画」も計画期間の折り返し点にあります。このため、これまでの成果を検証し、新しい発想によって可能性の宝庫「徳島」の個性や魅力をさらに開花させ、若者をはじめ誰もが「夢や希望」を抱いて明るい将来を語るができる社会の実現に向け、叡知を結集して、「課題解決先進県・徳島」ならではの新時代を切り拓く処方箋を創造、発信してまいります。

特に、「震災対策条例元年」となる今年は、県を挙げて震災に正面から立ち向かい、ハードソフト両面から、真に「震災に強いまちづくり」を推進いたします。皆様におかれましては、今後、津波災害警戒区域や活断層調査区域における土地や建物の取引を行う際、新たに「震災に強い社会づくり条例」に基づく「土地利用の制限」等の内容を、消費者の皆様にご重要事項説明の一環としてご説明いただくこととなります。県民の皆様「安全・安心」の確保に向け、どうぞ本条例の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

結びに、貴協会が「公益社団法人徳島県宅地建物取引業協会」として生まれ変わる本年が、文字通り、大いなる飛躍の年となられますことと、皆様のご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。